

小平・生活者ネットワーク

ニュース No142 2018年7月25日発行

1. 介護する人もされる人も 地域で自分らしく暮らすために
2. セクシャル・ハラスメントは人権侵害 セクハラを許さない社会へ!
3. 代理人の活動から
4. 窓、男性介護コラム、政治分野での男女共同参画を推進する法律 成立!、なんかへん

介護する人もされる人も

地域で自分らしく暮らすために

小平市の高齢者人口は約4万2千人。高齢者がいる世帯のうち一人暮らしは約3割、高齢者夫婦世帯も約3割です。介護が必要な高齢者とその家族を支えるために市でもさまざまな施策がとられています。見えてきた課題もたくさんあります。

介護する家族を支える

介護する家族の4分の1が疲れや先の見えない不安から一緒に死にたい、手につかぬかと思つたことがあるとの報道があります。小平市では地域包括ケア推進計画に介護家族の支援が位置づけられています。生活者ネットワークは、介護と医療が連携し家族・当事者を含めたチームとして介護体制をつくり、家族だけでなく、担わなくて済むような政策提案をしてきました。

小平では往診や定期巡回をする医師、看護師はまだまだ少なく、市として医師会を通じて積極的に働きかけることが急務です。また、医療的な措置の必要な介護者が宿泊・入院できる場所が圧倒的に不足しています。用事や休息のための預け先が

ないまま介護を続けていくのでは、家族は追いつめられてしまいます。

介護離職をなくすために

介護のために仕事が続けられない、いわゆる介護離職は年に10万人に上ります。

市は、介護家族の仕事の有無などをしっかりと把握し、気持ちに寄り添ったきめ細やかな対応をすることが必要です。職場では退職せずに介護が続けられることを前提に、介護休暇の充実や効果的なとりかたをアドバイスするなど、一人で背負いすぎないように社会資源を紹介することも求められます。

男性介護者への支援を

特に介護者が男性の場合、支援を求めらることをためらい、困難さを抱

え込んでしまうことが多いように感じます。

男性介護者同士で語り合える場やサービスの情報提供の機会など、男性に特化した寄り添い方の工夫が必要

地域で進める介護の社会化

生活者ネットワークでは「子育て・介護は社会のしごと」と位置付けています。少子高齢化が進み高齢で独居の人、介護が必要な人が増え、私たちは今までに経験したことのない社会に生きています。

介護する人もされる人も自分らしく暮らし続けるために、高齢者や家族の声をしっかりと受け取め、介護の社会化をすすめていきます。

(さとう悦子)



家の中を自由に動けるように在宅でリハビリ